

Smart Data Platformサービス利用規約 別冊 (IoT) 【現改比較表】 2023年2月6日時点

～2023年2月5日

2023年2月6日～

Smart Data Platformサービス利用規約 別冊(IoT)

[別紙](#) IoT Connect提供条件等 (略)

Smart Data Platformサービス利用規約 別冊(IoT)

[別紙1](#) IoT Connect提供条件等 (略)

[別紙2](#) IoTプラットフォーム提供条件等

[1](#) [メニュー一覧](#)

メニュー	内 容
(1) Things Cloud	SDPFサービスの1つであって、ネットワーク経由で送信されたセンサー情報を蓄積/管理し、ブラウザによるセンサーのステータスや位置の確認、異常発生時等に電子メール通知等を可能とする機能を提供するもの。

[2](#) [各メニュー等の提供条件等](#)

[\(1\) Things Cloud](#)

[A](#) [提供条件](#)

[\(A\)](#) [用語の定義](#)

用語	用語の意味
Things Cloudテナント	Things CloudにはThings Cloud親テナントとThings Cloudサブテナントがある。Things Cloudにて収集するユーザー情報、デバイス情報、測定データ、等の保持単位。
Things Cloud親テナント	Things Cloudサブテナントの作成やネットワーク接続機能の申し込み/廃止をするためのThings Cloudテナント。
Things Cloudサブテナント	Things Cloud親テナントの配下で作成可能なThings Cloudテナント。

[\(B\)](#) [提供機能](#)

[a](#) [デバイス接続機能 \(様々なモノをネットワーク経由で接続する機能\)](#)

機能	概要

Smart Data Platformサービス利用規約 別冊 (IoT) 【現改比較表】 2023年2月6日時点

～2023年2月5日

2023年2月6日～

Agentソフトウェア	デバイス上で動作し、Things Cloud上へのデバイス登録や計測データの送信、Things Cloudからの制御指示の受信などをプログラミングを必要とせずを実現。
機器認証	Things Cloudへの各通信において認証を実施。
計測データ送信	デバイスが計測したデータをAPIによってThings Cloudに送信可能。計測データは任意の値を送信可能。
機器制御用通信管理	Things Cloudからのデバイスに対する制御指示を受け取るための通信セッションを確立・管理するための機能。
通信ログ管理	Agentソフトウェアによる通信ログをデバイス上でファイル出力。

[b データ管理機能 \(デバイス情報を管理し、データを蓄積/処理/可視化する機能\)](#)

機能	概要
デバイス一覧表示	登録されているデバイスを一覧表示する機能。
デバイス設定管理	モノの情報(シリアルID等)をGUI上で設定・管理する機能。
デバイスグループ設定	デバイスを任意の単位でグループ化する機能。
デバイス接続監視	Agentを搭載したデバイスの接続状況をリアルタイムで監視する機能。
ソフトウェア管理	Agentを搭載したデバイス上のソフトウェアのバージョンを収集し、遠隔からバージョンアップを実施する機能。
デバイス遠隔管理	GUIの操作で遠隔からデバイスを制御(再起動等)する機能。
デバイス位置情報管理	モノのGPS情報を継続的に収集し、保存する機能。
デバイス接続管理	モノに払出されているID/PWの有効化/無効化をGUI上で設定する機能。
収集データ保管	デバイスが送信したデータを保管する機能。
グラフ表示	蓄積したデータをグラフ(折れ線)で表示する機能。
地図表示	モノの位置情報を地図上に対応付けして表示する機能。
その他表示	Widgetと呼ばれるGUIパーツ群でリニアゲージ、円グラフ、メータ表示等のデータ表示を可能とする機能。

Smart Data Platformサービス利用規約 別冊 (IoT) 【現改比較表】 2023年2月6日時点

～2023年2月5日

2023年2月6日～

<u>アラーム/イベント管理</u>	<u>収集したデータの値に対して閾値判定を行い、管理者に対してメールを送信する等の定型のルールをGUI上で設定する機能。</u>
<u>ジオフェンス</u>	<u>モノの位置情報が地図上の指定領域を出たかどうかを判定する機能。</u>
<u>FieldBus接続</u>	<u>デバイスのうち当社が指定した機器経由で特定のFieldBusプロトコル(Modbus、CAN等)のデータについて、GUI上の設定によってプログラミングなしでThings Cloud上のデータ保存形式に変換する機能。</u>
<u>カスタムストリーミング処理</u>	<u>収集したデータの値に対して任意のストリーミング処理を実施する機能。</u>
<u>備考</u>	<u>一部機能はインターネット接続を前提としています。Flexible InterConnect接続利用時には、Things Cloud開発者サイト (https://developer.ntt.com/iot/docs/users-guide/fic-connection/) の注意事項が適用されます。</u>

c 外部サービス接続（お客さまが準備する外部システムとの連携を実現する機能）

<u>機能</u>	<u>概要</u>
<u>メール送信</u>	<u>Things Cloudメールサーバを利用し、アラーム等を送信する機能。</u>
<u>外部システム接続API</u>	<u>Things Cloudに蓄積したデータの取得、外部サービスとの連携をAPIにより実現する機能。</u>

d Things Cloudテナント管理（テナントやユーザ情報などを管理するためのGUIアプリケーション）

<u>機能</u>	<u>概要</u>
<u>ユーザ管理</u>	<u>Things Cloudテナントにアクセスできるユーザを作成/削除する機能。</u>
<u>ユーザグループ管理</u>	<u>Things Cloudテナントに登録されているユーザをグループ핑して権限管理する機能。</u>
<u>Things Cloudテナント統計情報確認</u>	<u>Things Cloudテナントに登録されているデバイスの数や現在利用しているストレージ容量等を確認する機能。</u>

Smart Data Platformサービス利用規約 別冊 (IoT) 【現改比較表】 2023年2月6日時点

～2023年2月5日

2023年2月6日～

Things Cloudサブテナント管理	Things Cloudサブテナントを作成/利用停止する機能。
Things Cloudサブテナント統計情報確認	自ユーザThings Cloudテナントが管理する各Things Cloudサブテナントの統計情報(デバイス数、ストレージ容量等)を確認する機能。
ログ管理	デバイスやThings Cloudテナントに関するログを確認する機能。
ファイル管理	システム管理用のドキュメントなどを保存する機能。

[e ネットワーク接続 \(デバイスからThings Cloudへ接続するためのネットワークのアクセスポイント機能\)](#)

機能	概要
インターネット接続機能	インターネットからThings Cloudに対して接続するインターフェースを提供する機能。
LoRaWAN接続機能	LoRaWAN Network ServerからThings Cloudに対して接続するインターフェースを提供する機能。
Sigfox接続機能	SigfoxクラウドからThings Cloudに対して接続するインターフェースを提供する機能。
Flexible InterConnect接続機能	Flexible InterConnectからThings Cloudに対して接続するインターフェースを提供する機能。

[\(C\) 利用に関する条件](#)

[センサーを設置したデバイスから取得した情報をThings Cloud上に表示させるためには、契約者にて別途インターネット接続環境又はFlexible InterConnect接続環境の準備が必要となります。](#)

[\(D\) 非保証](#)

[当社は、明示・黙示を問わず、Things Cloudについて一切の保証 \(Things Cloudの通信速度、レスポンス、正確性、完全性を含みますがこれらに限定されないものとします。\) を行わないものとします。](#)

[\(E\) ハイセイフティ用途](#)

Smart Data Platformサービス利用規約 別冊 (IoT) 【現改比較表】 2023年2月6日時点

～2023年2月5日

2023年2月6日～

契約者は、Things Cloudが、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して実施されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、地図上の正確な場所が必要になる緊急サービス、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下、「ハイセイフティ用途」といいます。）に使用されるよう実施されているものではないことを確認します。契約者は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、Things Cloudをハイセイフティ用途に使用しないものとしします。

(F) 料金プラン

<u>区 分</u>	<u>内 容</u>
<u>スタンダードプラン</u>	<u>1 利用料金として、Web料金表に定めるThings Cloudテナント料、デバイス料、追加データ管理料、APIコール超過料、LoRaWAN接続機能利用料、Sigfox接続機能料、カスタムストリーミング処理機能利用料を適用します。</u>

B 料金算定方法

(A) Things Cloudの利用料金は1のThings Cloud親テナント毎にThings Cloudに係る料金の額を合算して適用します。

(B) デバイス従量は、各月においてThings Cloudテナントに登録されたデバイス数の最大値に基づいて算出します。デバイス従量に含まれるAPIコール数とデータ容量はThings Cloud親テナント毎に合算されます。

(C) 追加データ管理料は、Things Cloud親テナント毎に各月においてThings Cloudテナント毎に使用されたデータ量の最大値の合計からThings Cloud親テナント毎のデバイス従量に含まれる合算されたデータ容量を差し引いた値に基づいて算出します。

Smart Data Platformサービス利用規約 別冊 (IoT) 【現改比較表】 2023年2月6日時点

～2023年2月5日

2023年2月6日～

(D) APIコール超過料は、Things Cloud親テナント毎の各月におけるデバイスからのAPIコール数の合計値からThings Cloud親テナント毎のデバイス従量に含まれる合算されたAPIコール数を差し引いた値に基づいて算出します。

(E) カスタムストリーミング処理機能はThings Cloud親テナントの申し込み実施後に追加機能として申し込みが可能です。Things Cloudサブテナントにてカスタムストリーミング処理機能を有効化する場合は、Things Cloud親テナントでカスタムストリーミング処理機能の申し込みを行い、その後、お客さまにてThings Cloudの操作画面上で設定可能です。カスタムストリーミング処理機能利用料は各月におけるカスタムストリーミング処理機能を有効化しているThings Cloud親テナントならびにThings Cloudサブテナントの数の最大合計数に基づいて算出します。

(F) Things Cloudの利用料金の計算においては、デバイス従量、追加データ管理料、は日本標準時、APIコール超過料、TCテナント料、LoRaWAN接続機能利用料、Sigfox接続機能利用料、カスタムストリーミング処理機能利用料は協定世界時に基づいて計算します。